

人口減少化を考える

上

近年の日本以外にも人口が減少した時期は世界各地に存在した。古代ギリシヤにおいて、戦争などが無いのに都市部の人口が減少したことが、紀元前2世紀半ばに生きたポリビオスという人物が当時のギリシヤについて記録。「現在では全ヘラス(ギリシヤ)にわたって子どものない者が多く、また総じて人口減少がみられる。そのため都市は荒廃し、土地の生産も減退した。しかも我々の間で長期の戦争や疫病がないのである」

これを受けて故村川堅太郎東京大学名誉教授が「人口減少のわけは人間

経営士の提言

人口減少期 古代ギリシヤにも / 人手不足と生産性の改善不可欠

「歴史人口学から食と人口」の関係を鬼頭宏静岡県立大学長が次のように述べる。食が十分でなければ人口は増加しない。縄文時代から21世紀に至る日本の人口推移を、何人かの研究者による推計に基づいてまとめると、過去1万年の間に増加と停滞を繰り返す波が4回ほどあった。第1回は、縄文時代における人口循環。第2は弥生時代に始まる波、第3は、14、15世紀に始まる、そして第4の波は19世紀に始まり現代に至る循環だ。

歴史的に1900年代までは、食物があると人口が増えて、経済・産業活動が盛んになる。ある生活様式で人口が一定数に達すると、それ以上は増えない。これが増加・停滞を繰り返す波となる。そして人口の変化は、次の社会システムを生み出す。

社会全体の実質国内総生産(GDP)が縮小する事態にも、1人当たりの実質GDPが成長を続けることは可能で、十分な生産性上昇があれば人口減少下でも社会全体の実質GDP成長はあり得る。

まずは総合研究所のレポートによると、日本経済の中期の見通しは、消費増税の影響を受け2020年前後、一時的に経済は減速するが、インバウンド(訪日外国人)需要の拡大や建設設備の更新需要が見込まれ回復すると見られている。課題は供給面にあり、人手不足の解決と生産性改善が日本の持続性に不可欠となる。

人手不足には、女性・高齢者など未活動労働力の労働参加を促す基盤整備が重要で、生産性は、労働の質と正の相関があり、教育投資が有効である。また、人工知能(AI)・IoT(モノのインターネット)活用に向けても人材育成が重要である。